

☆進路だよりはすべて目を通し、保護者の方に見てもらいましょう。

# 進路だより

2017年7月17日(火)  
貝塚市立第二中学校  
三年生対象 資料

公立高校のアドミッションポリシー、問題の種類、倍率のタイプが発表されました。

## 【1】平成31年度 各公立高等学校の学力検査問題の種類とタイプ(抜粋)

\*印=変更になったところ

学校名	学力検査問題			タイプ	学校名	学力検査問題			タイプ
	国語	数学	英語			国語	数学	英語	
岬	A	A	A	Ⅲ	日根野	B	B	B	Ⅰ
和泉総合	A	A	A	Ⅲ	貝塚南	B	B	B	Ⅰ
登美丘	B	B	B	Ⅰ	りんくう翔南	B	B	B	Ⅲ
泉陽	C	C	C	Ⅰ	泉鳥取	B	A	A	Ⅳ
三國丘	C	C	C	Ⅰ	鳳	C	B	C	Ⅰ
金岡	B	B	B	Ⅱ	岸和田市立産業	B	B	B	Ⅲ
東百舌鳥	B	B	B	Ⅱ	堺市立堺	B	B	B	Ⅱ
堺西	B	B	B	Ⅱ	農芸	B	B	B	Ⅲ
福泉	A	A	A	Ⅳ	園芸	A	A	A	Ⅳ
堺上	B	A	A	Ⅲ	今宮工科	B	A	A	Ⅱ
成美	B	A	*A	Ⅲ	堺工科	A	A	A	Ⅲ
泉天津	B	B	B	Ⅱ	佐野工科	A	A	A	Ⅲ
信太	A	A	A	Ⅳ	泉北	C	B	B	Ⅱ
高石	B	B	B	Ⅰ	天王寺	C	C	C	Ⅰ
和泉	C	B	C	Ⅰ	貝塚	B	A	B	Ⅱ
岸和田	C	C	C	Ⅰ	伯太	B	A	A	Ⅲ
久米田	B	B	B	Ⅰ					
佐野	C	B	C	Ⅰ					

☆他の高校・アドミッションポリシーについては別に抜粋を配布します。すべての高校については大阪府教育委員会のHPを見て下さい。  
→教室にも掲示します。

アドミッションポリシーとは、  
学校が求める生徒像、期待する生徒の姿を示したものであり、受験生にとって、志望校を決定する大きな判断材料の一つになるとともに、受験生が、出願時に自己申告書を作成する際に参照するものです。  
高等学校においては、総合点(学力検査の成績等+調査書中の評定)等とともに、このアドミッションポリシーに基づいて、受験生の可否を判定することになります。

## 【2】学力検査問題の種類並びに学力検査の成績及び調査書の評定にかける倍率のタイプ

### 1、特別入学者選抜等における問題の種類及び特徴

種類	特徴		
	国語	数学	英語
A (基礎的問題)	基礎的な内容の文章を正確に理解する力を問う問題や、国語に関する基礎的な知識を問う問題を中心に出題する。	基礎的な計算問題を出題するとともに、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の基礎的な事項についての理解を問う問題を中心に出題する。	〔筆答〕 基礎的な語彙・文法の理解を問う問題とともに、基礎的な内容の英文を読み取る力を問う問題を中心に出題する。 〔リスニング〕 自然な口調で話された英語からその具体的な内容や必要な情報を聞き取る力を問う問題を中心に出題する。
B (標準的問題)	基礎的・標準的な内容の文章を正確に理解する力を問う問題を中心に、問われたことがらについて適切に表現する力を問う問題をあわせて出題する。	「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の基礎的・標準的な事項についての理解を問う問題を中心に出題する。	〔筆答〕 基礎的な語彙・文法についての理解を問ううえで、基礎的・標準的な内容の英文を読み取る力を問う問題を中心に出題する。 〔リスニング〕 自然な口調で話された英語からその具体的な内容や必要な情報を聞き取る力を問う問題を中心に出題する。

\*A、B問題のリスニングテストでは、同一問題を使用し、配点は約20%（5分の1）とします。

### 2、特別入学者選抜等における学力検査の成績及び調査書の評定にかける倍率のタイプ

実技検査を実施する選抜においては、表の総合点に実技検査の成績を加えたものとする。

表1

倍率のタイプ	学力検査の成績にかける倍率	調査書の評定にかける倍率	参考		
			学力検査の満点	調査書の満点	総合点
Ⅰ	1.4倍	0.6倍	315点	135点	450点
Ⅱ	1.2倍	0.8倍	270点	180点	
Ⅲ	1.0倍	1.0倍	225点	225点	
Ⅳ	0.8倍	1.2倍	180点	270点	
Ⅴ	0.6倍	1.4倍	135点	315点	

表2 大阪市立の高校では表1に次のタイプも加える。

倍率のタイプ	学力検査の成績にかける倍率	調査書の評定にかける倍率	参考		
			学力検査の満点	調査書の満点	総合点
Ⅵ	1.8倍	0.2倍	405点	45点	450点
Ⅶ	1.6倍	0.4倍	360点	90点	
Ⅷ	0.4倍	1.6倍	90点	360点	
Ⅸ	0.2倍	1.8倍	45点	405点	

3、一般入学者選抜における問題の種類及び特徴

種類	特徴		
	国語	数学	英語
A (基礎的問題)	基礎的な内容の文章を正確に理解する力を問う問題や、国語に関する基礎的な知識を問う問題を中心に出题する。	基礎的な計算問題を出题するとともに、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の基礎的な事項についての理解を問う問題を中心に出题する。	【筆答】 基礎的な語彙・文法の理解を問う問題とともに、基礎的な内容の英文を読み取る力を問う問題を中心に出题する。 〔リスニング〕 自然な口調で話された英語からその具体的な内容や必要な情報を聞き取る力を問う問題を中心に出题する。
B (標準的問題)	基礎的・標準的な内容の文章を正確に理解する力を問う問題を中心に、問われたことからついて適切に表現する力を問う問題をあわせて出题する。	「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の基礎的・標準的な事項についての理解を問う問題を中心に出题する。	【筆答】 基礎的な語彙・文法についての理解を問ううえで、基礎的・標準的な内容の英文を読み取る力を問う問題を中心に出题する。 〔リスニング〕 自然な口調で話された英語からその具体的な内容や必要な情報を聞き取る力を問う問題を中心に出题する。
C (発展的問題)	標準的・発展的な内容の文章を正確に理解する力を問う問題とともに、問われたことについて適切に表現する力を問う問題を中心に出题する。	「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の標準的・発展的な事項について、数学的に処理し判断する力を問う問題を中心に出题する。	【筆答】 標準的・発展的な内容の英文の中から、話題や論理の流れに沿って必要な情報を素早く読み取る力を問う問題とともに、一定量以上のまとまりのある内容を英文で適切に表現する力を問う問題を中心に出题する。 ※問題文は、指示文を含め、すべて英語で構成する。 〔リスニング〕 自然な口調で話された英語からその具体的な内容や必要な情報を聞き取る力を問う問題とともに、「読む・聞く・書く」技能を統合的に活用する力を問う問題を出题する。

\* A、B問題のリスニングテストでは、同一問題を使用し、配点は約20%（5分の1）とします。  
\* C問題のリスニングテストでは、A、B問題と異なる問題を使用し、配点は約33%（3分の1）とします。

4、一般入学者選抜における学力検査の成績及び調査書の評定にける倍率のタイプ

表3

倍率のタイプ	学力検査の成績にける倍率	調査書の評定にける倍率	参考		
			学力検査の満点	調査書の満点	総合点
I	1.4倍	0.6倍	630点	270点	900点
II	1.2倍	0.8倍	540点	360点	
III	1.0倍	1.0倍	450点	450点	
IV	0.8倍	1.2倍	360点	540点	
V	0.6倍	1.4倍	270点	630点	

表4 大阪市立の高校では、表3に、次のタイプも加える。

倍率のタイプ	学力検査の成績にける倍率	調査書の評定にける倍率	参考		
			学力検査の満点	調査書の満点	総合点
VI	1.8倍	0.2倍	810点	90点	900点
VII	1.6倍	0.4倍	720点	180点	
VIII	0.4倍	1.6倍	180点	720点	
IX	0.2倍	1.8倍	90点	810点	

5、一般入学者選抜（多部制単位制Ⅲ部（クリエイティブスクール）及び定時制の課程）における学力検査の成績及び調査書の評定にける倍率のタイプ

表5

倍率のタイプ	学力検査の成績にける倍率	調査書の評定にける倍率	参考		
			学力検査の満点	調査書の満点	総合点
I	1.4倍	0.6倍	378点	162点	540点
II	1.2倍	0.8倍	324点	216点	
III	1.0倍	1.0倍	270点	270点	
IV	0.8倍	1.2倍	216点	324点	
V	0.6倍	1.4倍	162点	378点	

表6 大阪市立の高校では次のタイプも加える。

倍率のタイプ	学力検査の成績にける倍率	調査書の評定にける倍率	参考		
			学力検査の満点	調査書の満点	総合点
VI	1.8倍	0.2倍	486点	54点	540点
VII	1.6倍	0.4倍	432点	108点	
VIII	0.4倍	1.6倍	108点	432点	
IX	0.2倍	1.8倍	54点	486点	

